シーン別画像診断のいま SCENE VOL.5

Ⅳ オートプシー・イメージング（Ai）におけるITの活用と運用

4. 撮像に関するさまざまな方法
── AiにおけるCT車・MRI車の活用

平川　雅之　株式会社フリール

当社では，現在，CT12台（うち16列5台，4列2台），MRI10台（うち1.5T 4台）の車載式装置を保有し，全国7拠点でレンタル運用を行っている。

Aiに関してはCT車を，2004年に千葉大学法医学教室様に貸し出し，県内の警察署に赴き異状死体をCT撮影するという，Aiを日本で初めて本格的に用いた研究にも使用された。また，東海大学法医学教室様などにも，CT車，MRI車の貸し出し実績がある。

2010年8月16日には，16列のAi専用CT車（図1～3）を開発し，Aiサービスを開始した。

CT車の概要

「病院のCT室をそのまま車両に搭載する」をコンセプトに設計された16列CT車は，シーメンス社製，東芝メディカル社製，日立メディコ社製の装置を搭載したもので，車の全長9.4m，全幅2.5m，全高3.8mと，道路や敷地が狭い施設にも赴くことが可能である。特徴は，下記のとおり。

① 大型パワーゲートがあり，ご遺体をストレッチャーのまま撮影室に移動可能
② 発動発電機を搭載しており，ご遺体がある現場に出向き撮影が可能
③ ドライタイプレーザーイメージャーを搭載しており，フィルムを車内で現像可能
④ 情報通信ネットワーク環境があれば，読影先などに画像を電子配信が可能

MRI車の概要

1.5T MRI車（図4～6）は，東芝メディカル社製，フィリップス社製，日立メディコ社製の1.5T MRI装置を搭載したもので，トレーラーに装置が搭載してあり，トレーラーの全長11.7～12.5m，全幅2.5m，全高3.8mと，道路や敷地が狭い施設にも赴くことが可能である。そのほかに，0.2T，0.5T，1.0TのMRI装置を搭載した車も保有している。

移動できるCT車・MRI車の有用性

1. 病院外の異状死体の場合

車の機動性を生かし，どこへでもすぐに移動，そして，撮像・診断が可能であり，異状死体を現場から病院に搬送する必要がなくなる。より現場に近い場所で24時間365日スピーディに撮像でき，正確な判断が早期に可能となり，証拠の保全能力も高まる。ご遺体の搬送料も含めると，大幅なコストの削減が可能となる。

図1　Ai専用CT車（左斜め後方）

図2　Ai専用CT車（技師作業風景）

図3　Ai専用CT車（後方搬出入口）

〈0913-8919/13/￥300/ 論文 /JCOPY〉